

# 第58回日本PTA全国研究大会ちば大会

## 房の国 集い語れば 実りあり!



発行所  
〒107-0052 東京都港区赤坂  
7丁目5番38号  
社団法人  
日本PTA全国協議会 敬  
発行人 相川 敬  
電話 03(5545)7151  
FAX 03(5545)7152  
ホームページアドレス  
http://www.nippon-pta.or.jp/

**綱領**  
本会は教育を本旨とする民主的団  
体であり、不偏不党・自主独立の  
性格を堅持し、PTAの健全な発  
展の維持、並びに青少年の幸福な  
成長を図ることを目的とする。

**主な内容**

1面	●全国研究大会 ちば大会
2面	●全体会 ●県P自慢
3面	●広報紙 コンクール
4面	●分科会 (1~4)
5面	●分科会 (5~8)
6面	●特別第1分科会 ●特別第2分科会
7面	●文部科学省 のページ
8面	●各ブロック大会 のお知らせ

「房の国 集い語れば 実りあり!」をスローガンに、8月27日(金)、28日(土)の両日、第58回日本PTA全国研究大会ちば大会が千葉県にて開催された。美しい海、花薫る房の国・千葉県へ全国から約8000人のPTA会員と教育関係者が集まり、幕張メッセを中心とする10会場で分科会、全体会が行われ、「子どもたちの笑顔のために」家庭・学校・地域が創り育てていくべき教育環境について熱心な研究討議がなされた。



### 子どもたちの歓喜溢れる 学校・地域社会を求めて

#### 会長あいさつ

皆様、おはようございます。ようこそ「ちば」へお越し頂きました。会員皆様には、日頃より日本PTAの運営に対し、ご理解・ご協力を頂き、誠にありがとうございます。こと改めて御礼を申し上げます。大会開催にあたり、皆様へご挨拶を申し上げます。

この千葉県は、古くは安房の国・上総の国・下総の国と呼ばれ、今は首都圏を形成する経済都市でありながら、多くの自然に恵まれた温暖なところ。その地で、第58回日本PTA全

国研究大会を迎え、このように多くの会員皆様が全国から集い開催できますこと大変ありがたく、主催者一同心から感謝をいたしております。また、本日は公務多忙の折、大会にご臨席いただきました文部科学大臣政務官 高井美穂様、千葉県知事 森田健作様、千葉県長 熊谷俊人様をはじめとする多くの来賓皆様には衷心よりお礼を申し上げます。

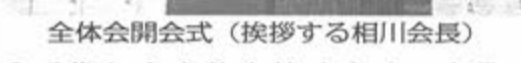
本大会は、スローガン「房の国 集い語れば 実りあり!」を掲げ、昨今の現状を踏まえ、各研究テーマを検討・準備してまいりました。戦後、物づくりにから情報産業へと大きく経済成長を続けてきた日本は、今、成熟した経済・高齢化する社会を迎え、新たな時代の転換を求められています。その大切な心を見失うこともありません。子ども

を模索する社会は、政権の交代を選択し、政府は「コンパクトから入る」との方針を掲げ、次世代への転換を図っています。しかしながら、低迷する国内経済はアメリカ・ヨーロッパの金融問題など世界の経済に翻弄され、長期のデフレ経済から脱却できず、就労環境の悪化・所得格差・教育格差等の問題が深刻化しています。世界で各地で起るテロ・深刻化する貧困・自然環境破壊などが後を絶たず、日本社会もそのような世界の波に大きく影響されています。

ところで、この千葉県の南房総・鴨川市で生まれ、波乱の人生を生き抜き、瀬戸内寂庵さんの小説「いよよ華や」のモデルでもある俳人 鈴木真砂女は、子どもの頃、春の房総の「ゆたり」とした波を眺めて育ち、その時の情景を自分の生きざまに写し、「あるときは 舟より高き 即波かな」と詠んでいます。

「こ千葉県房総半島の沖では、黒潮と親潮が出会い、時には大きな「うねり」となります。今、私たちは、そのような社会の大きな「うねり」の中にあります。私たちがその「うねり」に翻弄され、時として、人としての大切な心を見失うこともありません。子ども

を模索する社会は、政権の交代を選択し、政府は「コンパクトから入る」との方針を掲げ、次世代への転換を図っています。しかしながら、低迷する国内経済はアメリカ・ヨーロッパの金融問題など世界の経済に翻弄され、長期のデフレ経済から脱却できず、就労環境の悪化・所得格差・教育格差等の問題が深刻化しています。世界で各地で起るテロ・深刻化する貧困・自然環境破壊などが後を絶たず、日本社会もそのような世界の波に大きく影響されています。



全体会開会式(挨拶する相川会長)

### 祝辞

文部科学大臣政務官  
高井 美穂氏



「新しい公共」の先導的な役割を担っていらっしゃるPTAの皆様が、この千葉県において、このように盛大に開催されますことを心よりお慶び申し上げます。また、PTAの皆様におかれましては、子どもたちを取り巻く教育環境の充実のため、日頃より熱心にPTA活動に取り組んでおられますこと、心より感謝を申し上げます。

本大会では「房の国 集い語れば 実りあり!」というスローガンのもと、全国からこのように多くの皆様一堂に会し、子どもたちの未来を育む教育やPTA活動の在り方について研究協議いただくことは大変意義深いことと存じます。子どもをめぐめる様々な課題を解決していくためには

度予算において、昨年度の5倍強となる4200人の大幅な教職員定数増を行なうこと、全国1000万人の能力の向上方策について検討を行っております。さらに、昨日、30年ぶりに40人学級を見直し、小・中学校で35人学級を実現し、小学校低学年については30人学級とするなどを柱とする新教職員定数改善計画案を発表したところであり、平成23年度からの実施に向けて来年度概算要求に盛り込んで参ります。また、小学校の新学習指導要領が来年度から、中学校においては再来年度から、全ての教科等において実施されます。新学習指導要領の趣旨や内容について

しかし、昨今、子どもたちに関わる様々な問題や安全が脅かされる事態などが深刻化し、大きな社会問題となっています。私たちは、この現実を真摯に受け止め、家庭教育やPTA活動のあり方を改めて見直し、改善を図らなければなりません。本研究会では、「房の国 集い語れば 実りあり!」をスローガンに、語り合ったことをそれぞれの地域の現状を踏まえながら、子どもたちの健全育成に向け実践することを宣言し、次の決議をします。

### 決議

- 1、PTA活動への理解と充実に向け、家庭・学校・地域社会と連携・融合し、新しいPTA活動のあり方の確立を図ります。
- 2、子どもたちの生活環境の実態を把握し、いじめ、児童虐待、不登校等の問題発生への解決に積極的に取り組みます。
- 3、更なる家庭教育の充実を図るため、活力あるPTA活動の構築と促進に努めます。
- 4、青少年健全育成関係機関との連携を密にし、地域ぐるみで子どもたちを育てる活動の活性化を図ります。

平成22年8月28日  
第58回日本PTA全国研究大会ちば大会

の御尽力により「PTA・PTA全国協議会、並びに青少年教育団体共済法」が成立いたしました。今後、本法に基づき共済事業が早く実施できるよう、政省日お集まりの御機嫌の今後命令等の整備を進めて参ります。更なる御発展を祈念いたしまして、私のお祝いの言葉を引き継いでいくことのできることを願っています。

本紙は各校PTAに四部、内訳として「校長・教頭用」、「PTA会長・役員用」、「広報委員会用」、「事務局用」を目安にしています。

**きざし**  
▼今年の夏は、酷暑が続き、夏休みや試合中の熱中症に気を配らなければなりません。急いで病院に運ばれたら、本校の生徒には該当者がいないかとホッとされているところ。ここで考えさせられることは、俗に言われる「早寝、早起き、朝ご飯」とい言葉である。どうしても長期休業中は、就寝時間や起床時間が崩れることが多い。規則正しい生活を家庭でも守れないことが多い。このような状況で、朝早くから暑い中、部活動をする中で熱中症。我が家では、朝ご飯には必ず味噌汁が卵かけご飯等で塩分や水分を補給させている。家庭でのちょっとした配慮で、生徒たちの熱中症を防げるのではないかと思う。▼さて、最近では2学期制や2校エアー化等により、2学期の始業式が8月中旬に行われる学校が増えています。本校も8月25日が2学期の始業式である。授業時間確保等の課題により、始業式を早める自治体が増えている。このことについては未だに賛否両論があるが、私個人としては、やはり2学期は、9月1日という日本文化の根柢に文化に慣れ親しんでいるので、体が未だについていけないのが現状である。▼いよいよ2学期が始まった。始業式で、2年生が真っ黒になった姿を見ると、頑張ったんだと実感する。また、3年生が大切な学期が始まるという引き締まった顔を見ると「頑張れよ」と声をかけたくなる。2学期は、3年生から下級生にバトンタッチする学期である。色んな場面リーダーとなってきた3年生の良さを引き継いでいけることが、我々教師の使命でもある。「表の存在」から「黒衣になる」そして、「自分達の思いを後輩に託す」それが良き伝統を引き継いでいくことのできることを願っています。



# 第32回広報紙コンクール表彰式 受賞おめでとう！42紙が受賞



表彰を受ける受賞者

第32回全国小・中学校PTA広報紙コンクールの表彰式が、8月27日、日本PTA全国研究大会ちば大会の第4分科会場で行われた。応募総数6040校の中から、一次・二次・三次・最終審査を経て、小・中学校各21校、計42校のPTA広報紙が優秀広報紙として表彰された。

文部科学省からは生涯学習、習政策局社会教育課長塩見みづ枝氏が出席し、祝辞を述べられた。

表彰式会場には各賞を受賞したPTAの代表が多数出席し、喜びを表していた。

文部科学大臣賞、日本PTA会長賞、日本教育新聞社社長賞、教育家庭新聞社社長賞、

## 受賞の喜び

### 文部科学大臣賞

茨城県水戸市立三の丸小学校PTA

大変光栄に存じます。今後の紙面作りの励みになりました。ありがとうございます。「広報委員は大変だ。」のイメージを崩すために12名の委員、各自得意分野で活躍してもらいました。その結果が今回の受賞です。

### 文部科学大臣賞

鹿児島県鹿児島市立紫原中学校PTA

受賞を聞き「まさか」という思いでしたが、賞状を手にして喜びでいっぱいになりました。子育て、仕事に忙しい中で部員さんの活動努力と学校、PTAなど多くの方々の広報紙作りへの理解と協力の賜物と大変うれしく思っております。インパクトのある見出しと読みやすい文字数、レイアウトに気をつけています。これからも広報紙「紫原」は「読みたくなる新聞」「親子で話題にできる新聞」を目指し活動していく所存です。

### 日本PTA会長賞

千葉県長柄町立長柄小学校PTA

全国で7位にあたる栄誉ある賞をいただき、大変うれしく思います。また、記念すべき千葉での全国大会で受賞する事ができ感謝深い思いです。PTA会員だけでなく、学校運営を支えてくれている賛助会員(地域の方)にも楽しんでいただけたらいいと思います。応援していただいている児童たちの活動の様子をイキイキと伝えることに苦勞しました。

### 日本PTA会長賞

長野県飯田市立伊賀良小学校PTA

我が校では過去に何回か全国表彰をいただいたと聞いておりましたが、今回はこのような素晴らしい賞をいただくことができています。委員の出席や負担に思わぬよう協力し、意思疎通のため会議や作業を欠席した人には、メールで進捗状況を随時伝え、一体化を計りました。校長先生も話題を提供してくださり、PTA担当の先生の協力も非常に力になりました。

### 日本PTA会長賞

佐賀県鳥栖市立弥生が丘小学校PTA

平成20年4月に開校した学校で、PTAもその年の5月に設立されました。すべてがゼロからのスタート



優秀広報紙を会場に展示

### 日本PTA会長賞

神奈川県東野市立本町中学校PTA

先達達が連続して受賞していらした中、少々のプレッシャーの中、良い賞をいただくことができてうれしく思っています。

### 日本PTA会長賞

川崎市立はるひ野小学校PTA

開校2年目にして広報委員のがんばり、そして各方面の方々の惜しみない協力がこのように形に報われたこと、「保護者目線での企画が充実」との審査総評をいただいたことが何より嬉しいことです。小中連携校のため、小中双方の会員に

### 日本PTA会長賞

山口県防府市立国府中学校PTA

今回の受賞は「優秀広報紙」を毎年長く読み、何年もかけて目指してきたものです。地域のPTAの先輩や学校の先生方がとても喜んでくれて、日頃子どもがお世話になっている場所にお返しできました。見ていない行事や聞いていない講習会について記事を書くことはできません。PTAが行くことができる場合は、ほぼすべての行事を取

### 日本PTA会長賞

神奈川県東野市立本町中学校PTA

1年間の活動をこのように評価していただきました。広報委員みなさんの力が一つになって作りあげた結果です。「紙面作り仲間づくり」だと思っております。委員全員が楽しく活動していたというのが紙面に表れていると思います。

### 日本PTA会長賞

富山県富山市立山室中学校PTA

今回全国広報紙コンクールにて日本教育新聞社社長賞をいただきました。未熟な紙面で賞を頂けたのはこうした一生懸命さが伝わったからかと思っております。ありがとうございます。

### 日本教育新聞社社長賞

熊本県菊陽町立菊陽中学校PTA

思いがけない大きな賞を頂きとても嬉しかったです。「いじめ・差別」と向き合うためのPTAとして何ができるかをテーマに活動することは厳しく困難な面もありましたが、報われた思いです。厳しい現実と正面から向き合うために、きめこまかなインタビューやアンケートをとりました。

### 教育家庭新聞社社長賞

神奈川県東野市立波沢小学校PTA

4年前の「佳作」入賞以来2度目の全国表彰となりました。小さな学校なので、企画から印刷まで全て手作りで作業を部員一丸となって手間をかけて作り上げた作品がこの様な栄誉のある賞を頂き、大変嬉しく思います。日頃の努力の結果が評価された事でこれからの活動にも大変大きな励みとなりました。毎年頂いている「優秀広報紙賞」は広報紙の編纂に関わる者としてはバイブルのようなもので、大変勉強になりました。

### 教育家庭新聞社社長賞

さいたま市立大久保中学校PTA

今回、このような大きな賞を頂けたことは、本当に光栄なこと。とても驚いています。ご協力頂いた方々に感謝の気持ちでいっぱい。自分たちが「載せたいもの」「より「載せたいもの」を優先して、内容を皆で吟味し、取材にメモを足運びました。未熟な紙面で賞を頂けたのはこうした一生懸命さが伝わったからかと思っております。ありがとうございます。

### 写真賞

鳥根県奥出雲町立鳥根小学校PTA

先生、地域の方の協力をいただき紙面を作ってきました。校内全戸配布を行っているということもあり、地域の方から貴重な意見をいただくこともありました。そして、なにより広報部員の方々の協力があってこそ受賞だとも思います。

### 写真賞

千葉県松戸市立第一中学校PTA

先達方の素晴らしい財産としての伝統があり、過去2年連続して日PTA奨励賞をいただいている、タイトルを目標に楽しく勉強・研究・作成していたのが感謝です。会員や先生方の理解や協力にも大いに助けられました。

### レイアウト賞

山田小学校PTA

3年連続の受賞に驚き、また誇りを感じています！周りからがらばりすぎず、バランスを心がけられましたが、制作現場は工夫や学

### 佳作

岩手県一関市立山目小学校PTA

ありがとうございます！「シンプルであるが、企画、記事よく工夫されている」との評をいただきました。これは各委員の日々の生活での、また山目小学校の教育方針としての目標そのものです。「感謝」を胸に今後よりよい広報活動を目指してがんばります。

### 佳作

東京都足立区立中島根小学校PTA

一年間の苦労が報われ、役割を考えながら試行錯誤した日々でしたが、結果が受賞に結びつき大変嬉しく思っております。

### 佳作

神戸市立高津橋小学校PTA

まさかこのような賞をいただくことになりました。委員の中で広報委員は大変な方でやり手が無いく、くじ引きから選ばれた仲間で作った作品が佳作を取り大変嬉しく思っています。

### 佳作

福岡県大牟田市立延命中学校PTA

たたくとは夢にも思っていりませんでした。少しでもPTAや学校の活動の様子を伝えたい一心で仕上げました。これを励みに更に内容が充実した広報紙になるようがんばってまいります。

### 佳作

福岡県飯塚市立二瀬中学校PTA

思いがけず全国でも表彰を受け驚いています。一年間の活動に大きなご褒美を頂いたようで、とても嬉しく思っています。手書きの新聞なので読みやすい字を書くのに苦勞しますが、できるだけ自分達で取材をして、読者目線の紙面作りをしています。

### 佳作

福岡県飯塚市立二瀬中学校PTA

父母の視点を大切に、家庭と結びつく話題を盛り込む様にしています。

**第32回全国小・中学校PTA広報紙コンクール**

優秀広報紙集

第32回全国小・中学校PTA広報紙コンクールの優秀作品を紹介した広報紙集が完成した。全国から6040校の応募があり、各地方協議会での第一次審査を経て563校が日本PTAに推薦された。さらに日本PTAでの第二次、第三次、最終審査を経て、小学校21校、中学校21校、計42校の

購入方法  
はがきまたはファックスで日本PTA全国協議会事務局までお願いします。  
定価 1,800円 送料 290円(いずれも税込み)  
社団法人日本PTA全国協議会  
〒107-0052 東京都港区赤坂7-5-38  
TEL 03-5545-7151  
FAX 03-5545-7152

# 分科会 報告

## 第1分科会～第4分科会

### 第1分科会

#### 組織・運営

### 学級のPTAをなくして、日本のPTAなし

～今こそ、PTAの原点を見つめよう～



K-1 競技統括プロデューサー 角田信朗氏

PTAを運営する上で、避けては通れない組織運営のあり方について、ひたすら熱く語り合った分科会でした。躍動的なダンスと勇壮な手児奈太鼓で幕を開けた会場、最初に基調講演を頂いたのは、K-1でおなじみの角田信朗氏。少年時代の体験や、故アンディ・フック氏との壮絶な別れなど、笑あり涙ありの、メッセージは、心に響きました。

パネルディスカッションでは、齋藤匠コーディネーターの「愛してるかい？」の呼びかけで、初めから会場が一つになり、鈴木由香氏、宮田明吉氏、石井秀幸氏、川神裕司氏の発表を聞いた後、会場もまじえた意見交換がなされました。

形骸化した組織をなくし、学級、学年単位で活動しながら、先生も主体的に参加する仕組みを取り入れた新しいPTAの事例、地域の団体を巻き込む提案、最後には、日本PTAの活動のあり方まで論議が及ぶ熱気溢れるパネルディスカッションになりました。分科会を通して、「一貫して発信されているのは、「変革を求め強いメッセージ」でした。各地のPTAが、

### 広報活動 企業から学ぼう！ 広報・PR

#### 第4分科会

第4分科会は、「企業から学ぼう！ 広報・PR」を研究課題として、アパホテル&リゾート 東京ベイ幕張ホールで開催されました。



基調講演 千葉ロッテマリーンズ 原田卓也氏

式は検討中です。午後の部は、お二方の基調講演と日本PTAの活動報告がありました。

まず、株式会社千葉ロッテマリーンズ・企画本部 事業企画部 部長代理の原田卓也氏により「千葉ロッテマリーンズの『新』集客戦略」と題しての基調講演がありました。

次に、株式会社オリエンタルランド・キャストディベロップメント部 部長の千原徳夫氏により「ハピネスの創出」～東京ディズニーリゾートのゲストサービスと人材育成」と題しての基調講演でした。

お二方の基調講演を聞いて、企業の集客では広報活動が大切で、広報誌やポスターを見やすい、読みやすい、分かりやすいものにする必要がある。これはPTAの広報誌も同じことではないだろうかと思われました。

最後に、日本PTA前副会長の天野一氏による「子どもとメディアに関する意識調査の結果報告」についての活動報告がありました。

### 第2分科会

#### 家庭教育

### 遊びから生まれる子どもとの会話

～あなたの家庭はどうですか？～

研究領域が家庭教育と言ふこともあり、終始アットホームな雰囲気で開催されていたのはとても印象的でした。

基調講演では、千葉大学名誉教授の藤澤英昭氏が、名譽教授の藤澤英昭氏が、教育者の視点でコミュニケーションのあり方について問題提起がされました。専門でもある「ものづくり」から感じる表現力や問題解決能力の希薄化、教える・学ぶ1:1ではないなど、今と昔を比較して分かりやすく説明していただきました。

実践発表では、千葉市立宮崎小学校のバスから「ふが」できること、できることを一生懸命頑張ることをモットーにした様々な活動内容を発表していたので、参加者自身が楽しんで取り組んでいる姿がとても参考になりました。

また、次の実践発表では「会話」と「遊び」について千葉市内の中小学校の児童生徒5092名からのアンケートの報告があり、その結果を踏まえ、パネル討議を行いました。

パネルリストは、様々な形で子ども達と関わる方々より、それぞれの立場で貴重な意見をいただき、討議された内容は、各単位PTAとして家庭で大切に役立つためのいい機会になったと

### 第3分科会

#### 学校教育

### 子どもたちに残そう この地球(ほし)の恵み

～自然から学ぶ 環境教育～



実践発表 長井秀子氏

8月27日に行われまして、千葉大会 第3分科会 報告申し上げます。

第3分科会は「子どもたちに残そう この地球(ほし)の恵み」をテーマに、自然から学ぶ環境教育を取り上げられました。国連環境技術顧問の吉村和就先生から地球規模での水資源の問題について基調講演され、環境問題の重要性を学びました。

習志野市は大会と自然が協調する町を推進しておられます。実践発表では、この町の自然の象徴である谷津干潟における取り組みが紹介され、島田義夫氏か

#### 基調講演

- 第1分科会 角田信朗氏 「心・技・体・～武道の精神～」
- 第2分科会 藤澤英昭氏 「自分を作る没頭体験」
- 第3分科会 吉村和就氏 「水と環境について」
- 第4分科会 原田卓也氏 「千葉ロッテマリーンズの『新』集客戦略」

組織を振り返る良い機会を、発信してくれたと思います。運営いただいた実行委員の皆様、参加者の皆様、心から感謝を申し上げます。

# 分科会 報告

## 第5分科会～第8分科会

### 第5分科会

#### 地域連携

#### 地域で伸び伸び育て！子どもたち

#### 安全・安心な街づくり

第5分科会は、船橋市民文化ホールに於いて、船橋市文化ホールに於いて、はかばか面踊り保存会による楽しい「はかばか面踊りとお囃子」から始まり、基調講演は元警視庁のシャーナリスト黒木昭雄氏



基調講演は元警視庁のシャーナリスト黒木昭雄氏

視庁のシャーナリスト黒木昭雄氏による「子どもの背後に迫る犯罪者の魔の手、危険はいつも身近にある」

### 国際理解

### 第7分科会

#### 地球規模の人間形成に必要な資質・能力・技能とは

#### 必要資質・能力・技能とは

第7分科会は、「地球規模の人間形成に必要な資質・能力・技能とは」というテーマで、浦安の浦安市文化会館にて開かれた。目白大学教授・多田孝志氏の基調講演をいたした。その後、多田氏をコーディネーターに5名のパネリス

### 第6分科会

#### 人権教育

#### 「活きるための性と生」

#### キーワードはコミュニケーション

八千代市民会館で開かれた第6分科会では、WYSH (Well-being of Youth in Social Happiness) 教育を唱えられている京都大学医学部・木原雅子准教授の基調



会場の様子

講演の後、実践発表やパネルディスカッションが行われました。

WYSH教育は性に関する問題を主に扱っていますが、人権教育として取り上げられたのは、その目的が若者の真の幸福を願うものであり、自分を大切に、心穏やかな人間関係を築くことを目的として、将来に夢や希望を持つ子どもを育成しようとしているから

です。特筆すべきことは、今回の取り組みが行政も含め、八千代市全体で行われていることです。独自に「思春

期保健ネットワーク会議」を立ち上げ、学校関係者・保健医療関係者・PTAなどが一体となり、ニュースレターを発行したり、シンポジウムや講演を行ったりしています。

### 第8分科会

#### 健康・安全

#### 子どもの未来は生活リズム

#### ～食と運動の大切さを伝えよう～



第7分科会会場

基調講演では、挨拶できない人間が増え、コミュニケーション

犯活動も重要であるが、特に家庭が大切であり、活発で元気な子どもを育てるためには、これよりよいという到達点はない。と力強く語られました。

午後からのパネルディスカッションでは、地元で30年近く地域の子どもたちを見過ごってこられた吉村さん

から子育てには、わが子と同じように接することができ、元気のよい子どもを育てるためには、これよりよいという到達点はない。と力強く語られました。

から子育てには、わが子と同じように接することができ、元気のよい子どもを育てるためには、これよりよいという到達点はない。と力強く語られました。

から子育てには、わが子と同じように接することができ、元気のよい子どもを育てるためには、これよりよいという到達点はない。と力強く語られました。



実践発表

第8分科会(健康・安全)では、主題「子どもの未来は生活リズム」、副題として「食と運動の大切さを伝えよう」と運動の大切さを伝えよう

の研究課題のもと、基調講演、実践発表とパネルディスカッションが行われた。基調講演では、「自ら育

つ力」をテーマに、早稲田大学競争部において駅伝監督を務めておられる渡辺康幸氏の講演が行われた。選手時代に経験された事をお話される中で、競技をする上で最も重要なのは、身体作りであり、自己管理をする中で栄養バランスを考慮した食事を摂る事が一番大切であると語られた。

最後に、渡辺監督や実践発表をされた三橋氏を交えてのパネルディスカッションが行われ、子どもたちの食生活に対しての地域での取り組みや規則正しい生活について、特に朝ごはんを摂る事が重要である等の話し合いが行われた。最後に「規則正しい生活の重要性、またそれに伴う食生活の大切さを子どもたちに如何に伝え、意識づけをするためには、我々大人はどのようなことを心がけたら良いのか？」の質問に、会場から沢山の意見も出されるなど、参加の方々から参考になった分科会であったと思っ

### 基調講演

- 第5分科会 黒木昭雄氏 「子供の背後に迫る犯罪者の魔の手、危険はいつも身近にある」～今、なぜ子どもの安全を考える時代なのか～
- 第6分科会 木原雅子氏 「がまんできない、人間関係作れない、でも一人になれない子どもたち」～子どもたちの性の現状と私たち大人にできること WYSH教育の視点から～
- 第7分科会 多田孝志氏 「21世紀に生きる子どもたちが育むべき資質・能力、技能とは何か」
- 第8分科会 渡辺康幸氏 「自ら育つ力」

作り合う、響き合うこと、「感覚を心で知ること」が大事であり、持つことが、これからの時代必要である」とまとめられた。

「子育てに関してですが、一人の人として自分自身とあるべきか学ぶことのできた素晴らしい分科会でした。」

特別第1  
分科会

# 「いのちの尊さ大切さ」

## 特別第1分科会報告

広大な複合コンベンション施設である幕張メッセの国際会議場にて、特別第1分科会は開催されました。研究課題は、「いのちの尊さ大切さ」という少々重たいテーマでしたが、基調講演、実践発表、パネルディスカッションの3部で構成され、それぞれ異なる立場からの講師やコーディネーター、パネリストから多角的なお話があり、重苦しさを感じることがありませんでした。

はじめの基調講演「知的障がい者から学んだ『生きる』ということ」では、講師の細川佳代子氏の上品なうえにユーモラスで人間性溢れる講話が展開されました。

氏は生い立ちから知的障がい者のスポーツイベント「スペシャルオリンピック」までの活動、「全ての人間には、意味があって生きていくことに気がついた」との細川氏の言葉が印象的でした。また、学生時代の失敗談や夫である護照氏と出会った時のことなど、今でも初々しく話される姿にとても親近感を覚えま



基礎講演 細川佳代子氏

実践発表では、前神戸市PTA協議会会長の三木秀美氏より「しあわせ運べるように」を歌い継いで」と題し、1995年1月17日早朝に発生した阪神淡路大震災で失われた多くの尊い命を追悼し、命の大切さを歌を通じて伝えていく取り組みが発表されました。

パネルディスカッションでは、立場の異なる4名のパネリストの方から、大地震のあったハイチでの救援活動における悲惨な状況や、実際に児童虐待を受けた子どもたちなど、各々の経験に基づいた貴重なお話が聞かれ、参加者それぞれ深く考える良い機会となりました。

最後に、細川氏からまとめの講評を頂きましたが、「一周の人の大切にする気持ちを広めたい」との言葉に、多くの参加者の共感が得られたと思います。

当分科会を担当されました小川実行委員長をはじめとする千葉市稲毛区PTA連合会を中心とした実行委員会の皆様のご努力と真摯に取り組む姿勢は、本当に素晴らしいものでした。心から感謝申し上げます。



パネルディスカッション

会場内には、震災10年目に作成された6443羽の折鶴の神戸の街タペストリーが展示され、また、ロビーでは日本赤十字の活動についてのコーナーが設けられました。

### 基調講演

『知的障がい者から学んだ』『生きる』ということ』

細川佳代子氏(ほそかわ かよこ) 認定NPO法人スペシャルオリンピック日本名誉会長

### 講師紹介

細川佳代子氏(ほそかわ かよこ) 認定NPO法人スペシャルオリンピック日本名誉会長

### 講演趣旨

スペシャルオリンピック(SOI)は、パラスピックスと混同されがちですが、知的発達障がいのある人の自立と社会参加を日常的なスポーツ活動を通して応援する国際的な組織のことです。以来、日本にその

特別第2  
分科会

# 「新学習指導要領により、学校教育やPTA活動はどのように変わるのか?」

「生きる力」を育むための自ら課題を見つけ、自ら考え、表現できる力を身につける。そして、すべての教科において言語活動を充実させ、知識を使いこなすし、より深い力を丁寧に育てていきたいと思います。そのため、家庭と地域が協力・参画できる学校を作り、それぞれが充実を求め、連携する必要があると述べられました。

午後からの実践発表では、3つの学校支援活動の報告があり、保護者が教育サポーターとして参画し、学校・先生・子どもたちを力強くバックアップし、自分自身が楽しみながらユニティの輪を広げ、生き生きと活動されている様子が伝わってきました。

パネルディスカッションでは、国立教育政策研究所教育課程研究センター長の神代浩氏をコーディネーターに迎え、6名のパネリストによる熱い議論が繰り広

どもたちは震災の経験のない子どもたちになってしまいました。ただ、神戸の子どもたちは223文字の詩の「しあわせ運べるように」の歌が歌い継がれています。

震災直後の避難所で初めて歌われ、災害からの復興を目標し、命の大切さを伝えながら国内外の地へ広がりました。

1・17の集い、ルミナリエの点灯式、追悼の歌として毎年歌い継がれている歌です。この歌を通して「あの日を忘れない」、あの震災で生かされた命から君たちは命を授かった、というメッセージを子どもたちに伝えていきたいと思えます。



基調講演 千葉大学教授 天笠茂氏

「生きる力」を育むための自ら課題を見つけ、自ら考え、表現できる力を身につける。そして、すべての教科において言語活動を充実させ、知識を使いこなすし、より深い力を丁寧に育てていきたいと思います。そのため、家庭と地域が協力・参画できる学校を作り、それぞれが充実を求め、連携する必要があると述べられました。

午後からの実践発表では、3つの学校支援活動の報告があり、保護者が教育サポーターとして参画し、学校・先生・子どもたちを力強くバックアップし、自分自身が楽しみながらユニティの輪を広げ、生き生きと活動されている様子が伝わってきました。

パネルディスカッションでは、国立教育政策研究所教育課程研究センター長の神代浩氏をコーディネーターに迎え、6名のパネリストによる熱い議論が繰り広

「生きる力」を育むための自ら課題を見つけ、自ら考え、表現できる力を身につける。そして、すべての教科において言語活動を充実させ、知識を使いこなすし、より深い力を丁寧に育てていきたいと思います。そのため、家庭と地域が協力・参画できる学校を作り、それぞれが充実を求め、連携する必要があると述べられました。

午後からの実践発表では、3つの学校支援活動の報告があり、保護者が教育サポーターとして参画し、学校・先生・子どもたちを力強くバックアップし、自分自身が楽しみながらユニティの輪を広げ、生き生きと活動されている様子が伝わってきました。

パネルディスカッションでは、国立教育政策研究所教育課程研究センター長の神代浩氏をコーディネーターに迎え、6名のパネリストによる熱い議論が繰り広



実践発表

## 特別第2分科会報告

産業・文教・経済など、多彩な顔を持つ千葉市の中心で、東京湾に臨み、ウォーターフロントとして栄える新都市幕張。特別第2分科会は幕張メッセ国際会議場にて開催されました。

はじめに基調講演として「新学習指導要領の実施と学校支援」と題し、千葉大学教授である天笠茂氏より講演をいただき、次にその全面実施について、文部科学省初等中等教育局教育課程課長である平林正吉氏から説明をいただきました。

### コーディネーター紹介

牧嶋 博子氏(まさしま ひろこ) TBSテレビ報道局取材センター解説委員

### パネリスト紹介

浅香 朋美氏(あさかともみ) 成田赤十字病院医師  
高柳 俊一氏(たかやなぎ しゅんいち) 長野県教育委員会 教学指導課課長  
山中 ゆりか氏(やまなか ゆりか) 千葉市専門かゆりか 千葉市専門里親  
三木 秀美氏(みきひでみ) 前神戸市PTA協議会 会長

### 実践発表

「しあわせ運べるように」を歌い継いで

発表者 三木 秀美氏(みきひでみ) 前神戸市PTA協議会 会長

### 講演趣旨

1995年1月17日5時46分、突然神戸を襲った未曾有の大地震。失われた6443人の命……。あれから15年が経ち、震災後に生まれた子どもたちも15歳、中学3年になりました。義務教育をうける子

「生きる力」を育むための自ら課題を見つけ、自ら考え、表現できる力を身につける。そして、すべての教科において言語活動を充実させ、知識を使いこなすし、より深い力を丁寧に育てていきたいと思います。そのため、家庭と地域が協力・参画できる学校を作り、それぞれが充実を求め、連携する必要があると述べられました。

午後からの実践発表では、3つの学校支援活動の報告があり、保護者が教育サポーターとして参画し、学校・先生・子どもたちを力強くバックアップし、自分自身が楽しみながらユニティの輪を広げ、生き生きと活動されている様子が伝わってきました。

パネルディスカッションでは、国立教育政策研究所教育課程研究センター長の神代浩氏をコーディネーターに迎え、6名のパネリストによる熱い議論が繰り広

### 基調講演

新学習指導要領の実施と学校支援 - PTA活動の可能性 -

講師 天笠 茂氏(あまがさ しげる) 千葉大学教授

### 行政説明

新学習指導要領の全面実施について、学校・家庭・地域の連携の在り方、説明者 平林 正吉氏 文部科学省初等中等教育局教育課程課長

### 実践発表

◎たぐさんの力が学校を支える

渡辺 保子氏 横浜市立三保小学校 校長

◎学校支援ボランティアは街づくり、八戸市小中野の街と人と学校と

平間 恵美氏 八戸市小中野小学校支援本部コーディネーター

◎地域に広げる子育ての輪

増田 恭子氏 鳴門市立無養小学校放課後子ども教室コーディネーター

## 次期開催地アピール

第58回 日本PTA全国研究大会 ちば大会 全体会

房の国 集い語れば 実りあり!

第59回 日本PTA全国研究大会 ひろしま大会 2011.8.26・27

コーディネーター 神代 浩氏 国立教育政策研究所教育課程研究センター長

パネリスト 寺脇 研氏 京都造形芸術大学教授  
岸 祐司氏 学校と地域の融合教育研究会副会長  
秋津コミュニティ顧問 小正 和彦氏 横浜市立つじが丘小学校 校長  
平間 恵美氏 八戸市小中野小学校支援本部コーディネーター  
田中 孝一氏 文部科学省初等中等教育局主任視学官

赤田 英博氏 元社団法人 人日本PTA全国協議会 会長

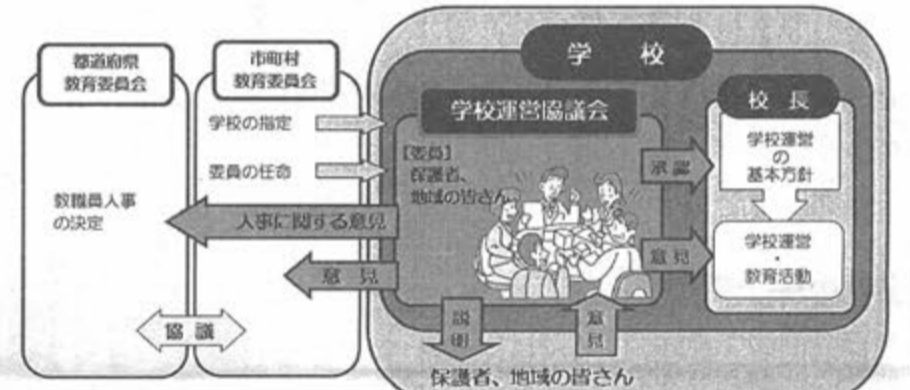
文部科学省

保護者・地域と一体となった学校づくりを進める「コミュニティ・スクール」

「コミュニティ・スクール」は、保護者や地域の皆さんが学校運営に参画し、学校運営協議会が設置され、学校運営の基本方針を承認したり、教育活動などについて意見を述べたりすることを通じて、地域の皆さんの意見を学校運営に反映させます。

中央教育審議会初等中等教育分科会特別支援教育の在り方に関する特別委員会の設置について

平成18年12月、障害者の権利に関する条約(以下「障害者権利条約」)が国連総会において採択され、20年5月に発効しました。同条約は、障害者の尊厳、自律及び自立、差別されないこと、社会参加等を一般原則として規定し、障害者に保障されるべき個人の権利及び基本自由について定め、これを確保するための措置を締約国がとること等を規定するも



ホームページアドレス http://www.mext.go.jp/a\_menu/shotou/community/index.htm

11月1日から7日は「教育・文化週間」です。

小さい頃に連れて行ってもらった恐竜の博物館、国語の授業で取り扱われたこととをきっかけに読み始めた源氏物語。普段の勉強とは違う、「学び」へ触れることが楽しかった思い出は誰にもあつたのではないのでしょうか。日々の忙しさの中、そのような「学ぶことへの楽しさ」から遠ざかってしまいませんか。11月1日から7日まで教育・文化週間です。

陰影礼讃—国立美術館コレクションによる

独立行政法人国立美術館は今年で10年目に入り、これを記念して、東京国立近代美術館、京都国立近代美術館、国立西洋美術館、国立国際美術館、国立新美術館が協力して展覧会を開催します。足元や地面に落ちる人や物の「影」と、光がささげられた場所が薄暗く見える「陰」。影のこれら2つの特徴を踏まえながら、視覚芸術における影について多角的に考察します。

特別展 近代美術 日本画の前衛 1938-1949

京都国立近代美術館(075-761-4111)では、9月3日から10月17日まで、「日本画」の前衛1938-1949展を開催します。

国立劇場 文楽鑑賞教室

国立劇場では、初めての方にも文楽を楽しく観たい方にも文楽鑑賞教室を開催します。解説と文楽を代表する名作を上演。一度は観ておきたい公演です。

本年6月7日には、同会議において「第1次意見」とりまとめられ、これを踏まえて、6月29日には「障害者制度改革の推進のための基本的な方向について」が閣議決定されました。その中で、教育分野の制度改革の具体的な項目について、関係府省において検討することとされました。

生徒の特性・ニーズに応じた教育・支援の実施のための教職員等の確保及び専門性の向上のための方策などについて、調査審議を行うこととしており、これまで3回開催され、「就学相談・就学先決定の在り方」制度改革の実施に必要な体制・環境整備等についての自治体からのヒアリングや討議が行われ、引き続き検討を進め、平成22年内に中間的な取りまとめを行い、平成22年度中に一定の結論を得ることを目指してまいります。

学校支援地域本部に関する映像資料がエル・ネットに掲載中です

生徒の特性・ニーズに応じた教育・支援の実施のための教職員等の確保及び専門性の向上のための方策などについて、調査審議を行うこととしており、これまで3回開催され、「就学相談・就学先決定の在り方」制度改革の実施に必要な体制・環境整備等についての自治体からのヒアリングや討議が行われ、引き続き検討を進め、平成22年内に中間的な取りまとめを行い、平成22年度中に一定の結論を得ることを目指してまいります。

九州国立博物館開館5周年記念特別展「誕生!中国文明」

九州国立博物館は開館5周年記念特別展「誕生!中国文明」を開催します。中国最初の王朝である夏王朝からはじまる文明の足跡を、すくねる展示品によって紹介する大型展覧会です。子どもから大人まで、皆様のご来館をお待ちしております。



金縷玉衣 前漢時代 前1世紀 河南博物院蔵

